

# 老年看護学実習における退院調整や多職種連携の 視点での学修場面

池俣志帆\*・井上千秋\*・川上 将\*・小松美砂\*

An investigation of the coordination of hospital discharge and interprofessional  
work in gerontological nursing practice

Shiho IKEMATA, Chiaki INOUE, Susumu KAWAKAMI and Misa KOMATSU

## 要 旨

相山女学園大学看護学部 of 2021 年度カリキュラム変更に伴い、老年看護学実習では「医療、介護、福祉場面における多職種連携やチーム医療の在り方について、知識を得て、対応できる基礎力を身につけること」を実習目的の一部とし、退院調整や多職種連携の学修を行うことを実習目標に取り入れている。

今回、老年看護学実習における退院調整や多職種連携の視点での学修に向け、文献検討を通して、退院調整や多職種連携の学修場面を明らかにすることを研究目的とする。結果、老年看護学実習における退院調整や多職種連携の視点での学修場面としては、【退院後の生活を見据えた看護援助の実践】、【多職種連携カンファレンスへの参加】、【チーム医療の実践場面への参加】、【退院調整場面への参加】、【地域連携部門の見学】、【アクティブ・ラーニングによる主体的な学修】があることが明らかになった。

今後の老年看護学実習においても、退院調整や多職種連携の視点で、さらに学生が効果的な学修機会を得ることができるよう、実習内容を調整、工夫していくことが求められる。

## I. はじめに

令和5年版高齢社会白書によると、総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は29.0%であり、令和52年（2070）年には、2.6人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上となる（内閣府）。このような高齢化の状況の中、厚生労働省は2025年（令和7年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもと、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進している（厚生労働省、2016）。超

---

\* 看護学部

高齢社会を迎えた今、地域包括ケアシステムの実現に向けて、専門職との連携が必要とされ、看護職としての専門性を発揮するのみならず、多職種での連携実践が求められている(松井, 2022)。これは、文部科学省による看護学教育モデル・コア・カリキュラムにおいても、多職種との協働が示されていることから明らかであり(2017)、多職種連携教育については、患者へのよりよいケア実践のため、学生への教育、人材育成の観点からプログラムが実施されている(常見, 伊藤&紀平, 2019)。看護専門科目においても、各講義、演習、実習といった科目の中で、退院調整などで多職種連携を学ぶことができる機会の提供が求められているといえる。

本学看護学部の2021年度カリキュラム変更に伴い、老年看護学実習では「医療、介護、福祉場面における多職種連携やチーム医療の在り方について、知識を得て、対応できる基礎力を身につけること」を実習目的の一部とし、退院調整や多職種連携の学修を行うことを実習目標に取り入れている。今回、文献検討を通し、老年看護学実習における退院調整や多職種連携の実際や、学修場面を見出すことで、老年看護学実習への示唆を得ることとする。

## Ⅱ. 研究目的

老年看護学実習における退院調整や多職種連携の視点での学修に向け、文献検討を通して、退院調整や多職種連携の学修場面を明らかにする。

## Ⅲ. 研究方法

### 1. 対象文献の選定方法

Web版医学中央雑誌により検索した。検索のキーワードは「実習」、「退院または退院調整」、「多職種連携」の組み合わせとし、会議録は除き26件が対象となった。多職種連携の用語では、「専門職間人間関係」、「チーム医療」、「多部門連携」を統制語とした。この内、老年看護学実習における退院調整や多職種連携の視点の学修についての記述のある文献6件を研究対象とした。ただし、実習科目名が老年看護学実習ではないが、健康段階別での実習構成により、慢性期・リハビリテーション期の実習についても退院調整や多職種連携の視点で学修場面について記述のある文献を対象に含んだ。

### 2. 分析方法

対象となる文献の概要を記述した(表1)。文献ごとに、老年看護学実習における退院調整や多職種連携での学修場面につながる記述内容を抽出した。その後、抽出された記述内容の類似性に着目し、文献すべての記述内容を統合し、カテゴリー化を行った。この過程では、複数の研究者が分析に関わり、結果の妥当性の確保につとめた。

老年看護学実習における退院調整や多職種連携の視点での学修場面

表1 老年看護学実習における退院調整や多職種連携の学修場面 対象文献一覧

No	著者名, 発行年	雑誌名, 巻(号)	タイトル	研究目的	研究方法	結果・考察
1	鈴木早智子, 清水千代子 (2021)	足利大学看護学研究紀要, 9(1)	老年看護学病院実習における学生の学び	老年看護学病院実習における学生の学びを明らかにし, 老年看護学実習指導の充実に向けた基礎資料とする。	老年看護学実習終了後の学生レポートをデータとし, 質的に分析を行った。	学生の学びとして, 【加齢に伴う個体差】【対話することの関係性】などのカテゴリが導き出され, 学びの内容から実習の重要性が確認された。
2	須田雅美, 池田博子, 伊藤美奈 (2023)	神奈川県立よこはま看護専門学校紀要, (14)	老年看護学における新カリキュラムの構築過程	新カリキュラム構築の過程を振り返り, 実際の授業展開に活用する。	旧カリキュラムの評価に基づいた新カリキュラムの作成過程を振り返り, カリキュラム・ポリシーに基づき考察する。	老年看護学実習を発達段階別から健康状態別に整理し, 認知症看護や対象の意思決定支援を支える看護を学ぶことを強化した。
3	難波香, 木下香織, 安藤亮 (2020)	新見公立大学紀要, 41	認知症グループホームでの老年看護学実習における学生の学び	認知症グループホームでの老年看護学実習における認知症高齢者に関わる専門職の専門性についての学びを明らかにする。	老年看護学実習記録に記載された内容を質的に分析した。	【利用者の健康管理】【利用者と援助両側面でのリスクマネジメント】等が明らかとなり, 老年期の特徴を踏まえたアセスメントやその人らしさを理解したケアの実践が看護職の役割と認識していた。
4	奥山真由美, 道繁祐紀恵, 杉野美和, 他 (2015)	山陽論叢, 22	高齢者の退院支援における看護実践能力育成のためのアクティブ・ラーニングを導入した老年看護学実習の評価	回復期リハビリテーション病院における高齢者の退院支援に向けた看護実践能力育成のため, アクティブ・ラーニングの教育実践を行った。	教育効果について, アンケート調査から学生を学びを分析した。	アクティブ・ラーニングを臨地実習に導入することで, 学生の学びとしては【知識の獲得と新たな発見】【効果的なプレゼンテーション技法と学習の深まり】等が明らかとなった。
5	阿部祥子, 中村隆則, 高尾芳枝, 他 (2020)	神奈川県立平塚看護大学紀要, (2)	健康段階別看護論実習Ⅰ(慢性期・リハビリテーション期)における地域連携部門での学び—地域連携部門の見学実習を通して—	健康段階別看護論実習Ⅰ(慢性期・リハビリテーション期)における地域連携部門見学実習の意義と実習の成果として, 学生の学びを明らかにする。	学生へアンケート調査を行い, 質的分析を行った。	【多職種連携の実践】【退院調整の実践】【看護学生としての視点の広がり】との関連が明らかとなった。
6	水戸 美津子 (2008)	臨床看護, 34(2)	老年看護学教育の立場から「継続看護を理解する」老年看護教育の実践	老年看護学の立場から, 科目構成や内容, 展開方法について説明し, 今後の課題, 特に臨地実習での課題を述べた。		

## Ⅳ. 結果

老年看護学実習における退院調整や多職種連携の視点での学修場面について分析を行った。カテゴリーを【 】, サブカテゴリーを〈 〉, コードを〔 〕で示す。

結果, 29コードが抽出され, コードの類似している内容について12サブカテゴリーに分類し, 【退院後の生活を見据えた看護援助の実践】, 【多職種連携カンファレンスへの参加】, 【チーム医療の実践場面への参加】, 【退院調整場面への参加】, 【地域連携部門の見学】, 【アクティブ・ラーニングによる主体的な学修】の6カテゴリーに分類した(表2)。

### 1. 退院後の生活を見据えた看護援助の実践

老年看護学実習における学修場面としては, [退院計画を立案することで, 在宅でのその人の生活を把握していなければ, 十分な看護が展開できないことを理解できる]があり, 〈入院中から退院後の生活を見据えた退院計画を立案する〉があった。また, [入院中から退院後の生活を考慮した援助について考える]があり, 〈退院後の生活を見据えた看護援助を実践する〉ことが示され, 入院中から退院後の生活を見据えた看護援助の実践, が学修の機会となる。

### 2. 多職種連携カンファレンスへの参加

学生は, [多職種カンファレンスに参加し, チームワークの必要性を認識できる]により, 〈多職種連携カンファレンスへの参加により多職種連携への理解を深める〉ことができ, [多職種カンファレンスに参加し, 看護師の存在の重要性を実感する]ことで, 〈多職種連携における看護師の役割を考える〉といった多職種連携カンファレンスへの参加によって, 多職種連携への理解を深めたりや看護師の役割を考える機会となる。

### 3. チーム医療の実践場面への参加

[多職種連携によるチーム医療の実践の中で, 看護職の役割や責任の所在, チームで協働するチームワークの必要性に気付いた]等があり, 〈チーム医療の実践場面を通して多職種連携への理解を深める〉ことができ, [実習中の多職種との関りを通し保健・医療・福祉の視点から看護師の役割を考える]によって, 〈チーム医療の実践場面を通して看護師の役割を考える〉機会となっている。チーム医療の実践場面への参加を通して, チームワークや看護師の役割への理解を深める機会となる。

### 4. 退院調整場面への参加

[複数の退院調整の場面を通し, 退院調整への理解が深まった]ことで, 〈退院調整場面から退院支援への理解を深める〉となり, [退院調整の場面で教員や医療スタッフが意図的に対象の背景にある様々な要素をつなげることで, 学生は対象を多角的に捉えることができる], [教員や指導者が受け持ち患者を例にあげ説明することで, 理解が促進される]等によって, 〈退院調整場面から高齢者を多角的に捉えられる〉といった学びの機会が得られていた。退院調整場面への参加によって, 退院支援や高齢者への理解を深める機会となる。

## 5. 地域連携部門の見学

〔地域連携部門の見学により、病院と地域をつなぐ連携や在宅療養に向けた退院支援の実際を学ぶ〕があり、〈地域連携部門の見学を通して退院支援への理解を深める〉へとつながり、〔地域連携部門の見学により、地域の連携について知ることができた〕といった〈地域連携部門の見学を通して地域連携への理解を深める〉があり、地域連携部門の見学によって、退院支援や地域連携への理解を深める機会となる。

## 6. アクティブ・ラーニングによる主体的な学修

〔施設における多職種連携についてグループワークを通し、学生が主体的に学べる工夫〕は、〈グループワークにより多職種連携への理解を深める〉機会となり、〔高齢者の退院支援にむけた看護実践能力の育成のため、グループワークとプレゼンテーションを導入した〕

表2 老年看護学実習における退院調整や多職種連携の学修場面

カテゴリー	サブカテゴリー	主なコード
退院後の生活を見据えた看護援助の実践	入院中から退院後の生活を見据えた退院計画を立案する	退院計画を立案することで、在宅でのその人の生活を把握していなければ、十分な看護が展開できないことを理解できる
	退院後の生活を見据えた看護援助を実践する	入院中から退院後の生活を考慮した援助について考える
多職種連携カンファレンスへの参加	多職種連携カンファレンスへの参加により多職種連携への理解を深める	多職種カンファレンスに参加し、チームワークの必要性を認識できる
	多職種連携における看護師の役割を考える	多職種カンファレンスに参加し、看護師の存在の重要性を実感する
チーム医療の実践場面への参加	チーム医療の実践場面を通して多職種連携への理解を深める	多職種連携によるチーム医療の実践の中で、看護職の役割や責任の所在、チームで協働するチームワークの必要性に気付いた
	チーム医療の実践場面を通して看護師の役割を考える	実習中の多職種との関りを通し保健・医療・福祉の視点から看護師の役割を考える
退院調整場面への参加	退院調整場面から退院支援への理解を深める	複数の退院調整の場面を通し、退院調整への理解が深まった
	退院調整場面から高齢者を多角的に捉えられる	退院調整の場面で教員や医療スタッフが意図的に対象の背景にある様々な要素をつなげることで、学生は対象を多角的に捉えることができる
地域連携部門の見学	地域連携部門の見学を通して退院支援への理解を深める	地域連携部門の見学により、病院と地域をつなぐ連携や在宅療養に向けた退院支援の実際を学ぶ
	地域連携部門の見学を通して地域連携への理解を深める	地域連携部門の見学により、地域の連携について知ることができた
アクティブ・ラーニングによる主体的な学修	グループワークにより多職種連携への理解を深める	施設における多職種連携についてグループワークを通し、学生が主体的に学べる工夫
	アクティブ・ラーニングにより退院支援への看護実践能力を高める	高齢者の退院支援にむけた看護実践能力の育成のため、グループワークとプレゼンテーションを導入したアクティブ・ラーニングの教育実践を行った



アクティブ・ラーニングの教育実践を行った〕ことで、〈アクティブ・ラーニングにより退院支援への看護実践能力を高める〉場面となっている。グループワークやプレゼンテーションといったアクティブ・ラーニングによる主体的な学修が、多職種連携や退院支援への理解を深める機会となる。

## V. 考察

老年看護学実習において学生は、高齢者の入院時から退院後の生活を見据えた退院計画を立案し、また看護援助を実践する、といった【退院後の生活を見据えた看護援助の実践】によって、退院支援や継続看護の必要性を理解する機会となることがわかった。学生は、退院計画の立案を通して、高齢者の退院後の生活に目を向けることとなり、看護師のみならず退院後の生活を支える職種間の連携の必要性を考える機会となる。退院支援では、退院計画を立案、展開することが必要であり、退院という移行期や退院後に焦点をあて、ケアを行いながら評価、再アセスメントを行って行くプロセスとなる（正木, 2010）。患者、家族のニーズのアセスメントを行いながら、退院後の生活や必要な調整について理解をすることができるものと考えられる。〔退院計画を立案することで、在宅でのその人の生活を把握していなければ、十分な看護が展開できないことを理解できる〕とあるように、院内に限らず地域、在宅へと視点を広げていくことの重要性を学ぶことができる。更には、〈退院後の生活を見据えた看護援助を実践する〉とあり、入院中の受け持ち患者への看護援助の実践においても、退院後の生活を意識した関わりが必要となることを学ぶ機会となり得る。

高齢者と家族の多様なニーズにこたえるために、異なる専門性をもつ多くの職種とチームを組むことが不可欠とされ、多職種チームを構成することの必要性や多職種連携が推進されている（北川, 2021）。【多職種連携カンファレンスへの参加】により、チームワークの必要性や看護師の役割の理解を深めることにつながる。学生は、多職種連携カンファレンスへ見学、参加することで看護師と他職種がどのように連携しているのか、また各職種の専門性について考え、理解する機会とすることができる。このことから、老年看護学実習において、多職種連携カンファレンスへの参加の機会を提供することは重要であると考ええる。また、【チーム医療の実践場面への参加】を通して、チームワークや看護師の役割の理解を行っていた。チーム医療の実践の中で、多職種の実際や、他職種の専門性、そして看護の専門性について理解をすることができるものとする。高齢者はさまざまな健康課題を抱えており、困難な課題を多く持っていることもある。看護師だけでは対応ができないこともあり、チームアプローチの必要性、チームで問題解決に取り組むことは重要となる。チーム医療、多職種連携の場は多様化していることから（島内&内田, 2018）、病棟内での実践に限らず、機関外、地域との連携の機会なども、探究していくことが求められている。

臨床では、入院期間が短縮化し、地域包括ケアシステムへつなげる役割として、看護師などによる退院調整の重要性が示されている（松井, 真柄&遠藤他, 2010）。学生は、【退院調整場面への参加】によって、退院支援や対象者である患者、高齢者の理解を深める機会ともなり得る。また、退院調整場面では、実習指導者や教員が補足説明をすることで、

理解が促される機会となっており、学生が退院調整場面への参加を通して、見聞きしたことの意味付けを行うことの必要性も示された。【地域連携部門の見学】により、退院支援や地域連携への理解を深める機会となることがわかった。在宅看護学領域だけではなく、老年看護学領域などすべての領域において、地域包括ケアシステムに対応できる看護師の育成、という観点での教授内容を取り入れていく必要があるとされている（滝島&永井, 2018）。老年看護学実習においても高齢者がその人らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるような支援をどのように学ぶことができるのか、地域包括ケアシステムについても学修できる機会を持てるよう工夫していく必要がある。

多職種連携カンファレンスへの参加、チーム医療の実践場面への参加、地域連携部門の見学といった学修場面においても、【アクティブ・ラーニングによる主体的な学修】は求められる。グループワークやプレゼンテーションといったアクティブ・ラーニングを取り入れた学修の工夫によって、学生はより多職種連携や協働への具体的なイメージをすることが可能となり、退院支援に向けての看護実践能力が高まる機会となることがわかった。また、アクティブ・ラーニングを通して、学生は問題意識を持ち、退院調整場面や、多職種連携場面に焦点化した学修（柳原, 南&津田他, 2019）が行えたものと考えられることから、学生が主体的な学修態度で退院調整や多職種連携の学修場面に参加しているか、がいずれの学修場面においても重要となる。

## Ⅵ. 研究の限界と今後の課題

本研究では、文献検討によって老年看護学実習における退院調整や多職種連携の視点での学修場面を明らかにすることを目的としており、文献からの限定的な範囲や内容に留まっている。また、老年看護学実習における退院調整や多職種連携に関する文献数は6編であり、学修機会のすべてが明らかにできたとはとはいえない。しかし、老年看護学実習において、退院調整や多職種連携の視点から学修機会を得ることができる場面を見出し、その目的や意義について考えたことは、今後の老年看護学実習の内容や方法を検討、工夫する上での示唆となるとと思われる。

## Ⅶ. おわりに

老年看護学実習における退院調整や多職種連携の視点での学修場面としては、【退院後の生活を見据えた看護援助の実践】、【多職種連携カンファレンスへの参加】、【チーム医療の実践場面への参加】、【退院調整場面への参加】、【地域連携部門の見学】、【アクティブ・ラーニングによる主体的な学修】があることが、文献検討を通して明らかになった。

## 文 献

阿部祥子, 中村隆則, 高尾芳枝, 他. (2020). 健康段階別看護学実習Ⅰ（慢性期・リハビリテーション期）における地域連携部門での学び—地域連携部門の見学実習を通して—, 神奈川県立平塚看護大学紀要, 2, 24-27.

- 北川公子. (2021). 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学. 東京；医学書院.
- 厚生労働省. (2016). 地域包括ケアシステム. [mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/chiiki-houkatsu/](https://mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/). (2023. 8. 9閲覧).
- 正木治恵. (2010). パーフェクト臨床実習ガイド 老年看護実習ガイド. 東京；照林社.
- 松井由美子. (2022). 看護学教育のモデル・コア・カリキュラム, 指定規則とカリキュラム設計の実際. 日本保健医療福祉連携教育学会学術誌, 15(2), 92-97.
- 松井由美子, 真柄彰, 遠藤和男, 他. (2010). 臨地実習施設における Interprofessional Work の現状と課題. 日本保健医療福祉連携教育学会学術誌, 3(1), 2-9.
- 水戸美津子. (2008). 老年看護学教育の立場から 「継続看護を理解する」老年看護教育の実際. 臨床看護, 34(2), 204-210.
- 文部科学省. (2017). 看護学教育モデル・コア・カリキュラム. [https://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2017/10/31/1217788_3.pdf). (2023. 8. 9閲覧)
- 内閣府. (2023). 令和5年版高齢社会白書, 第1章 高齢化の状況. <https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/gaiyou/pdf/1s1s.pdf>. (2023. 8. 9閲覧)
- 難波香, 木下香織, 安藤亮. (2020). 認知症グループホームでの老年看護学実習における学生の学び —第二報 看護の役割と機能—Professionalism—に着目して—. 新見公立大学紀要, 41, 141-146.
- 奥山真由美, 道繁祐紀恵, 杉野美和, 他. (2015). 高齢者の退院支援における看護実践能力育成のためのアクティブ・ラーニングを導入した老年看護学実習の評価. 山陽論叢, 22, 11-20.
- 島内節, 内田陽子. (2018). これからの高齢者看護学 考える力・臨床力が身につく. 京都；ミネルヴァ書房.
- 須田雅美, 池田博子, 伊藤美奈. (2023). 老年看護学における新カリキュラムの構築過程. 神奈川県立よこはま看護専門学校紀要, 14, 66-72.
- 鈴木早智子, 清水千代子. (2021). 老年看護学実習における学生の学び. 足利大学看護学研究紀要, 9 (1), 31-43.
- 常見幸, 伊東久男, 紀平知樹. (2019). 兵庫医療大学における多職種連携教育. 兵庫医療大学紀要, 7 (1), 25-32.
- 柳原清子, 南香奈, 津田朗子, 他. (2019). 退院調整場面を焦点化した多職種協働・地域連携教育の検討: アクティブラーニングを用いて, Journal of Wellness and Health Care, 43 (1), 91-99.